

1 本事業への考え方について  
受講者が希望する進路の実現に向けた指導方針について記載してください。

### 1 貴区の現状理解と中学生の生徒・保護者が抱える課題点

#### ■本事業の目的 ※募集要項より一部抜粋

本事業は、区立中学校の生徒に質の高い学びを保障するための一つの取組として、中学校第1学年から第3学年までの生徒が高等学校の進学を見据え、学習講座やICT教材での学習を通して、成績を向上させ、希望する進路を実現することを目的とした学習支援事業です。

港区令和6年度予算概要[重点施策3 次代を担う「子ども」を地域全体で育む施策]の取り組みとして本事業は位置付けられています。

#### ■貴区の生徒・保護者の声 ※港区学校教育推進計画策定に向けたアンケート調査報告書より一部抜粋

港区学校教育推進計画策定に向けたアンケート調査報告書において、中学生が「悩んでいることや困っていることがあるか」の項目について「受験のこと」(51.4%)「将来のこと」(42.2%)への回答割合が高く、多くの中学生が自分の進路・将来に不安を抱えていることが想定されます。また「保護者が今後、区立中学校に充実を希望すること」の項目では「習熟度別授業、少人数指導などによる基礎学力や活用力の習得・向上」(39.8%)「受験対策・進路指導の充実」(33.1%)と回答する割合が高いことから**本事業のような進路・進学支援の重要性が高い**ことがわかります。

#### ■保護者の学校や地域とのかかわり ※令和3年度全国学力・学習状況調査 保護者に対する調査より一部抜粋

令和3年度全国学力・学習状況調査/保護者に対する調査では「学校や地域とのかかわりについて相談できる友人、知人がいるか」の項目について「いない」という回答率が20.4%であることから中学生の保護者の5人に1人は**周囲に相談する環境がなく、不安を抱えている可能性**があります。

#### ■貴区中学生の卒業後の進学状況

各中学校が発表している令和4年度卒業生進学状況によると、学校によって差異はあるものの都立高校進学者よりも**私立高校進学者が非常に多い**ことがわかります。また都立進学者の中には自作作成問題を適用している高校への進学者も多くいることから**柔軟な進学支援対策が必要**です。

専門的な学習・受験対策と学習・進路等の寄り添った相談体制、  
またクラス編成やカリキュラムを柔軟に対応できる体制が必要と考えます。

### 2 受講者が希望する進路の実現に向けた指導方針

#### 【方針①】学習習慣の確立と丁寧な学習サポート

生徒が自分で考え、学習できる習慣を確立するために**週間学習計画表**を活用します。また学校の学習内容をサポートするために**定期考査対策授業**を実施します。

#### 【方針②】生徒保護者が安心する学習・進路相談のサポート体制

保護者との連絡・相談や、生徒の入退室管理を円滑にするため**教室管理システム**を導入します。お電話、メッセージ機能使い、必要に応じて生徒・保護者の相談体制を整えます。

#### 【方針③】生徒の習熟度に応じた指導体制の設置

3年生は選抜テスト、クラス入替テストを実施し、**習熟度別・志望校別クラス**を編成します。また**オンライン質問アプリ**を導入し、個別の学習課題に応じる体制を整えます。

#### 【方針④】質の高い指導・教材に加え、受験対策にも対応したカリキュラムを提供

学習塾での指導経験を有する弊社職員が、**高い指導力**を持ち、高校受験対策の**経験が豊富なスタッフ**を厳選し配置します。また**弊社が独自に作成している教材の配布**、受験対策に対応したカリキュラムの設定、また英語の授業の際には**英語スピーキングテスト対策**を実施します。

## 【概要版】

### 2 対面講座の講師の採用・研修について

対面講座を実施する講師の採用方法や採用基準、また、採用後の研修内容や研修体制について具体的に記載してください。

#### 1 採用方法

弊社に登録している講師の中から、本業務に相応しい講師を選抜し、配置します。本業務は生徒に質の高い学びを保障し、希望する進路を実現することを目的としているため講師には「**受験対策・進路指導の経験**」「**指導教科の高い専門性**」が求められます。弊社では面接・学力試験・適性検査・模擬授業の4項目を実施し、基準を満たす者のみ採用します。指導者として相応しい適性があるかを確認したうえで、配置を決定します。

試験項目	確認事項
筆記試験	学力
適性検査	指導者としての適性
面接	志望動機・指導経験・人物像
模擬授業	指導力・授業力

#### 2 採用基準

##### ■業務従事者に求める資質

役職	求める資質
会場責任者	<ul style="list-style-type: none"><li>・弊社類似事業において会場責任者の経験が3年以上ある</li><li>・講師、補助講師へ指示が的確にできる</li><li>・生徒、保護者とのコミュニケーションを円滑に取ることができる</li><li>・業務担当者への報告・相談が迅速にできる</li><li>・生徒全体を把握し、安全管理を常に意識できる</li></ul>
講師	<ul style="list-style-type: none"><li>・集団指導形態の類似事業、または学習塾等において受験対策指導の経験が5年以上ある</li><li>・担当教科以外にも関心、理解があり、講師間で連携を取ることができる</li><li>・成績上位層への指導経験だけでなく中堅層・下位層の指導経験も豊富に有している</li><li>・補助講師と連携し、生徒状況の把握に努めることができる</li><li>・集団授業で理解を深められない生徒を把握し、寄り添ったサポートができる</li><li>・生徒のやる気を引き出すような指導・コミュニケーションができる</li></ul>
補助講師	<ul style="list-style-type: none"><li>・集団指導形態の類似事業、または学習塾等において受験対策指導の経験が2年以上ある</li><li>・講師と連携し、生徒状況の把握に努めることができる</li><li>・集団授業で理解を深められない生徒を把握し、寄り添ったサポートできる</li><li>・生徒のやる気を引き出すような指導・コミュニケーションができる</li></ul>

#### 3 研修体制

##### ■研修体制についての考え方

弊社は本事業向けの研修を年度内に3回実施いたします。指導力の向上はもちろんのこと業務従事者同士で生徒の情報共有や今後の指導方法について意見を交わし、生徒にとって最適な学びを提供できるよう日々研鑽に努めます。事業開始後は**定期的な本部職員による「巡回指導」**と学年、クラス毎に**講師同士で生徒状況を確認する「共有会議」**を行い、質的向上に努めるとともに、**チームで子どもを支援する体制**を築きます。

研修内容	実施内容
事前研修	・本事業の基礎理解 ・指導力基礎 ・コンプライアンス
期中研修①	・1学期の振り返り ・指導力応用① ・生徒管理方法
期中研修②	・2学期の振り返り ・指導力応用② ・入試直前期の生徒対応方法
共有会議	・学年、クラス毎に分かれ生徒状況の確認

【概要版】

3 対面講座の指導方法等について

(1) 1・2年生の指導計画、指導方法、習熟度の確認方法を具体的に記載してください。

1 指導計画(1・2年生)

■年間スケジュール

実施内容	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
選抜テスト	●				●						
事前説明会		●									
対面講座(通常講座)		●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
対面講座(定期考査対策)					●		●			●	
学力診断テスト					●			●			
作文添削指導		●	●	●	●	●	●	●	●	●	●

■年間カリキュラムの考え方

高校受験では、内申点の確保や向上が欠かせませんが、評価対象になる3年生から学習に本腰を入れ始めても成績が急上昇するものではありません。早い段階で定期考査に対する意識づけを行うためにも**通常時は学校内容の予習、定期考査前は復習**を中心としたカリキュラムを設定します。

2 指導方法(1・2年生)の基本的な考え方

■指導方法の基本的な考え方

①褒める・認める・励ますことを意識した集団指導

発問を多く行い、生徒が発言できる指導をします。些細な「できた」も見逃さず、生徒を褒め、努力していることを認め、一緒にできるようになろうと励ますことを意識した、クラス全体を巻き込んだ**集団指導**を行います。集団指導のメリットは競い合える関係をクラス内で作れること、在籍中学校以外の生徒とも交流ができることにあり、本事業が**生徒の社会性を育成するための場**となり、学年が変わっても本事業を続けたいと思える環境を目指します。

②生徒同士による協働的な学びの充実

**集団指導の中でも、生徒同士が協働**し、答えを導き出す時間を授業内で作ります。一人ひとりの良い点や、異なる点を組み合わせることで生徒の思考力・表現力・協調性の向上を図ります。

③充実した様々なサポート

対面指導以外にも学習についての質問ができる環境を整えることも重要と考え、スマホやタブレットPCを使用した**オンライン質問アプリ**を導入が可能です。また各科目の思考・表現を重視する問題にも対応できるよう、授業時に作文プリントを配布し、講師が添削をすることで**文章力の強化**を促進します。

3 習熟度の確認方法

実施時期	実施内容
確認テスト実施(毎回)	授業開始前に前回内容の復習として全教科確認テストを行い、生徒の学習定着度を図ります。貴区のGIGA端末が使用可能な場合はCBT形式での実施も検討可能です。
授業アンケート(月1回)	月1回授業アンケートを実施し、生徒の授業理解度や授業への意見・要望、現段階での志望校を取りまとめ、指導内容に反映します。
学力診断テスト(年2回)	9月、12月に、既習範囲の総合的な習熟度を確認する学力診断テストを行います。1・2年生は総合的な問題を解くことに慣れていない生徒も多く、入試問題への関心を高め、総合的な学力を確認します。

## 【概要版】

### 3 対面講座の指導方法等について

(2) 3年生(学力別)の指導計画、指導方法、習熟度の確認方法を具体的に記載してください。

#### 1 指導計画(3年生)

##### ■年間スケジュール

実施内容	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
選抜テスト	●				●						
事前説明会		●									
対面講座(通常講座)		●	●	●	●	●	●				
対面講座(入試対策)							●	●	●	●	
対面講座(定期考査対策)					●		●				
対面講座(長期休業期間)			●	●				●	●		
クラス入替テスト				●				●			
英語スピーキングテスト対策						●	●				
作文添削指導		●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
面接練習								●	●		

##### ■年間カリキュラムの考え方

3年生は1・2年生以上に内申点の確保や向上が欠かせません。そのため弊社では11月までは学校内容の予習、定期考査前では復習、11月以降は高校受験を目標とした入試対策を実施し、単元学習から総合問題演習、過去問演習など実践的な指導を進めます。また10月、11月頃には英語の授業の中で英語スピーキングテスト対策を行い、受験に向けたサポートを実施します。

#### 2 指導方法(3年生)の基本的な考え方

##### ①高校入試へのモチベーションアップを目的とした集団指導

1・2年生と同様、発問を多く行う指導、「褒める・認める・励ます」を基本とした指導、入試に向けて切磋琢磨できる環境を作り、生徒同士が交流し合える集団指導を実施します。また「この問題は入試に出やすい」等、常に入試を意識する言葉選びをし、意識向上を図ります。

##### ②生徒の進路希望に応じた柔軟なカリキュラム設定

本事業に参加する3年生は都立高校、私立高校等の多様な進路を希望することを想定しています。生徒の志望校に合わせた柔軟なカリキュラム設定を行います。

##### ③充実した様々なサポート

1・2年生と同様のサポートを行いつつ、英語スピーキングテスト対策を英語の授業時間内で実施します。また国語では作文問題や各科目の思考・表現を重視する問題にも対応できるよう、授業時に作文プリントを配布し、講師が添削をすることで文章力の強化を促進します。3年生は高校受験に向けて精神的にも負担がかかりやすい時期となりますのでお電話等での学習・進路相談は随時受け付けております。

#### 3 習熟度の確認方法

実施時期	実施内容
確認テスト実施(毎回)	1・2年生と同様に実施。
授業アンケート(月1回)	1・2年生と同様に実施。
クラス入替テスト(年2回)	結果に応じて生徒個々の学力に応じたクラス編成を行います。また12月に行う、クラス入替テストでは生徒の志望校もヒアリングしつつ、学力と合わせたクラス編成を行います。

## 【概要版】

### 4 使用する教材について

(1) 対面講座で使用する教材及び家庭用学習教材の内容について、貴社の独自性を踏まえて各学年・教科別に記載してください。

#### 1 使用教材の基本的な考え、教材の特徴

弊社は、様々な学力層の生徒に対して**目的に応じた教材を本事業の参加生徒にあわせて提供**することが可能です。授業での活用に留まらず、予習・復習・定着度の確認等、家庭学習と連動した教材となっています。また3年生には年間で使用する**基本教材とは別に実践的な入試専用教材を導入**します。

#### ■ 1・2年の使用教材案

教材種類	教科	教材の特徴
主教材	5科	本事業のメイン教材。「原則1単元4ページ」の中で、要点整理、導入問題、習得問題等の各要素のバランスに配慮した用性の高い教材です。授業用、家庭学習用と併用が可能。
漢字ドリル	国語	高校受験対策として、漢字の読み書きと、その他の漢字・語句の問題を最新入試問題から収集・分類し、出題頻度順に配列した教材です。
英単語帳	英語	1年生から受験期まで段階を踏んで学習できるよう、効果的な配列で2100語の単語を掲載し、全ての単語に <b>音声と例文</b> を用意。また、入試でよく出る500の熟語も出題レベル別に収録しています。
計算ドリル	数学	学年毎にスモールステップ形式で計算力が身につくように作成しています。また、必要に応じて計算一問ごとに解法のアドバイスを記載し、計算が苦手な生徒でも自分で学習することが可能です。

#### ■ 3年の使用教材案

教材名	教科	教材の特徴
主教材	5科	本事業のメイン教材。「原則1単元4ページ」の中で、要点整理、導入問題、習得問題等の各要素のバランスに配慮した汎用性の高い教材です。授業用、家庭学習用と併用できるだけでなく、 <b>クラスの習熟度により、発展版、または標準版を採択可能</b> です。
漢字ドリル	国語	1・2年生と同様
英単語帳	英語	1・2年生と同様
計算ドリル	数学	1・2年生と同様
高校受験用基礎問題集	5科	中学3年間の全単元をまとめた教材です。入試に必要な知識の総整理を効率的に進めます。
高校受験用演習問題集	5科	近年の高校入試の傾向変化にあわせた実際の入試に近いテスト形式問題集。全12単元構成で、前半8回分では頻出事項を単元別に復習し、後半4回分では総合問題形式により実践力を身に付けます。
高校受験用演習問題集(上位校向け)	国語 英語 数学	本事業の生徒の中でも「難関高校合格」を目指す生徒を対象に使用します。私立上位から難関私国立高校の実際の入試問題を精選しており、生徒の志望校状況に応じて配布します。

## 【概要版】

### 4 使用する教材について

(2) ICT教材の内容について、貴社の独自性を踏まえて各学年・教科別に記載してください。

#### 1 ICT教材の活用方法と基本的な考え方

ICT教材の配布を希望する生徒に対して、**弊社作成のオリジナルICT教材を提供**します。さまざまな目的に応じてカリキュラムを自動作成することができ、生徒一人ひとりのカリキュラムで、学習を計画的に進めることが可能です。また本教材には「ポイントレッスン」という学習内容解説動画もありますので、不明点を解消しながら学習を進めることができます。



#### ■活用できるプログラム

プログラム	内容
基礎学習	学校の進度にあわせて予習・復習ができるプログラムを作成。
苦手対策プログラム	生徒の苦手を見つけるためテストを実施し、苦手を克服するための専用プログラムを作成。
定期テスト対策	学校の定期テスト範囲とテスト日に合わせてプログラムを作成。貴区が採択している教科書にも全て対応。
学期末総復習	夏・冬・春の長期休業に全学期の復習ができるプログラムを作成。
入試基礎対策	高校入試に向けて、中学3年間の総復習ができるプログラムを作成。

#### ■1・2年の有効的な活用方法

教材名	教科	活用方法
苦手対策プログラム	英語 数学	苦手対策プログラムは小学校の学習内容まで遡って学習を振り返ることができます。英語、数学は各学年の積み重ねが非常に重要な教科であるため「自分の苦手を正しく把握でき、対策ができる」ことがメリットです。
定期テスト対策	5科	定期テスト対策は中間・期末考査の範囲を教科書のページ数や学習単元から設定し学習を進めます。各中学校の進度にあわせた学習スケジュールを設定することが可能です。

#### ■3年の有効的な活用方法

教材名	教科	教材の特徴
入試基礎対策	5科	中学校の総復習から学習を始め、後半では実際に入試で出題された基礎問題にチャレンジします。抜け漏れがないかスタートからチェックしたい、どの単元が忘れていないか確認したいという場合に最適です。
定期テスト対策	5科	基本内容は1・2年と同様ですが、前学年の学習内容も単元ごとに設定することが可能であるため、3年生は自分が苦手と感じている単元のみ抽出して、学習を進めることも効果的です。

#### 2 ICT教材の配布希望生徒のサポート

弊社ではICT教材の配布を希望する生徒に対して、ただアカウントを発行し、渡すだけで終わることなく、配布後についても充実したサポートを実施します。

サポート項目	内容
学習内容の進捗確認	管理画面で生徒の学習進捗を確認し、定期的に家庭連絡をします。その際に学習や進路の相談があれば、お電話で対応します。

## 【概要版】

### 5 受講状況の管理について

受講者の入退室における管理や出欠席の把握方法等の取組を具体的に記載してください。

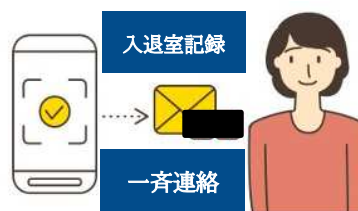
#### 1 受講状況の管理の基本的な考え方と方法

受講状況を適切に管理することは**生徒の出席率向上、学力向上、学習習慣の定着**にも大きく影響します。また本事業に生徒・保護者が安心して参加していただくためにも**安全管理の取り組み**は重要だと考えます。弊社では、生徒の入退室をリアルタイムで保護者に通知をする**教室管理システム**を導入するとともに、**本事業専用電話回線を利用した当日の欠席確認**を実施します。また欠席が続く生徒の対応として、保護者や生徒の在籍中学校との連携を行うことが可能です。

#### 2 教室管理システムの導入

##### ■教室管理システムの概要

本事業の運営を円滑に進めるため教室管理システムを導入いたします。具体的な機能は生徒の入退室時にリアルタイムで保護者に通知が届く**入退室管理機能**、日々の講座のお知らせや台風、地震等自然災害が起きた際の休講連絡などを速やかに配信できる**一斉連絡機能**、チャット形式で気軽に学習や進路の相談ができる**個別メッセージ機能**があります。



機能一覧	内容
入退室管理機能	専用のタブレットに QR コードが記載されたカードをかざすことで生徒の入室・退室をリアルタイムに保護者へ通知。
一斉連絡機能	日々の連絡事項、入試・進路に関する情報提供、自然災害時の休講連絡時に利用。
個別メッセージ機能	授業当日の欠席連絡、講座運営に関わる質問、問い合わせ、日々の学習や進路相談についてチャット形式で連絡。

##### ■一斉連絡機能を利用した生徒・保護者への情報提供

学年ごとの学習トピックや高校入試の仕組み、受験校を決定するための考え方とそのポイントなど入試に関する様々なデータをわかりやすくまとめ、ご家庭に配信することも可能です。

#### 3 生徒の欠席確認

##### ■事前の保護者からの欠席連絡方法

授業当日に生徒が欠席する場合は、教室管理システムの個別メッセージ機能か、会場ごとに設置をする本事業専用電話回線を用いて保護者から連絡をするように周知します。



##### ■授業開始後、生徒がいない場合の欠席確認方法

また当日、授業開始後 **10 分以上経過して出席していない生徒**がいる場合は本事業専用電話回線を使用し、**会場責任者がご家庭に連絡**をして、出席の有無を確認します。

#### 4 生徒・保護者・中学校との連携

##### ■保護者との連携

本事業専用電話回線と教室管理システムの個別メッセージ機能を用いて日々の学習・進路相談を受け付けます。また生徒の欠席が **2 週間以上続いた場合は状況に応じて保護者との三者面談**を実施します。欠席が続いている要因、対象者の要望などを丁寧にヒアリングし、支援の継続に繋がります。

##### ■貴区中学校との連携

欠席が続く保護者への電話やメッセージ等での連絡もつきにくい場合は、必要に応じて貴区担当者様にご相談の上、**生徒の在席中学校と連携**を図ります。また在籍中学校に月に 1 回程度を目安に、メールを活用した「定時連絡」を行います。弊社より出席状況や取り組み状況を共有するとともに、学校での気づきがあれば、ご共有いただき、日々の指導に生かします。

## 【概要版】

### 6 緊急時対応について

会場責任者、講師、補助講師の急な欠席や、受講者や保護者との間にトラブルが発生した場合の記載をしてください。

#### 1 会場責任者、講師、補助講師の急な欠席が出た場合

##### ①会場責任者

弊社、公教育専業部署に所属する職員が代わりに業務を担います。

##### ②講師／補助講師の場合

###### ・事前に連絡があった場合

弊社が受託している類似事業に従事する指導スタッフやグループ内の講師を管理担当者が手配し、代理出講させます。

###### ・事前に連絡がない場合（指導時間になっても出講しない）

同日開催の類似事業の余剰人員を会場に転任させます。また状況に応じて、弊社の公教育事業専門部署に所属する職員が代理出講します。

#### 2 受講者や保護者との間にトラブルが発生した場合

##### ■トラブル・苦情についての基本的な考え方

まずは当日の気候や子どもの様子等、些細な変化に目を配り、「事故を起こさないこと（未然の防止）」に努めます。しかしながら事故が起こった場合でも、迅速かつ適切に対応ができるよう会場責任者はもちろんのこと、講師全員に弊社独自の「危機管理ガイドBOOK」の理解とコンプライアンス研修を徹底し、様々なケースに対応可能な体制を作り上げています。またトラブルが発生した場合は、弊社本部職員が責任を持って対応し、貴区への報告と発生状況に応じて逐次の報告/連絡/相談を行います。

#### 3 個人情報保護

##### ■個人情報保護体制の構築

本業務は生徒の氏名や学習状況等、センシティブな情報を扱うことから、個人情報の管理は極めて重要だと考えます。弊社はプライバシーマーク取得事業者として、子どもたちの学習支援に携わる事業者の責務として、全職員（非常勤雇用者含む）が個人情報及びコンプライアンスの研修を年1回受講し、個人情報保護の重要性を十分に理解した上で、適切に管理します。

##### プライバシーマークに則った個人情報の管理・運用

弊社は2005年からプライバシーマークを取得し、「個人情報保護マネジメントシステム要求事項」(JIS Q 15001:2006)に遵守した運用を行っていることが、第三者機関である一般財団法人情報経済社会推進協会（JIPDEC）により認定されています。



#### 個人情報に関わる事故防止方法例

- ①個人のパソコンやタブレット PCなどで個人情報管理は行わない。
- ②ファイル交換ソフトや許可されていないソフトウェアはインストールしない
- ③外から見える位置に個人情報を置かない。
- ④講師・生徒の個人的な情報のやり取りを禁止する。
- ⑤パソコンのデスクトップ上に個人情報ファイルを保管しない。
- ⑥自宅作業を禁止し、個人情報が入った書類やデータは持ち帰らない。
- ⑦運営に関わるメールの宛先はBCCに統一。一切送信時は複数名で送信先を確認。
- ⑧個人情報を含む資料は色紙に印刷し、識別性を高める。